

平成20年度サンゴ礁保全行動計画策定会議

第1回サンゴ礁価値評価分科会

平成20年6月6日(金)

10:00～12:00

新宿御苑インフォメーションセンター

2階レクチャールーム

次 第

1. 開会
2. 出席者紹介
3. 議事
 - (1) サンゴ礁の価値評価の目的について
 - (2) 評価する機能 (案)
4. 今後の予定
5. 閉会

(資料)

出席者一覧

資料1 サンゴ礁の価値評価の目的について

資料2 評価する機能 (案)

参考資料1 関係する事例

参考資料2 日本のサンゴ礁／サンゴ群集分布地図

第1回 サンゴ礁価値評価分科会 出席者名簿

○分科会員

座長	土屋 誠	琉球大学 理学部長、教授
	工藤 貴史	東京海洋大学 海洋科学部 准教授
	藤田 陽子	琉球大学 法文学部 准教授

○当分科会員以外の策定会議委員

灘岡和夫	東京工業大学 大学院 情報工学研究科 教授
------	-----------------------

○関係省庁

<環境省>

吉中 厚裕	環境省 自然環境計画課 課長補佐
中島 慶次	〃 調整専門官
木住野 泰明	〃 主査

<国土交通省>

泊 宏	国土交通省 河川局 砂防部 保全課 海岸室 海洋開発官
西原 照雅	〃 港湾局 国際・環境課 環境計画係長

サンゴ礁の価値評価の目的について

1. サンゴ礁の価値評価の目的について

サンゴ礁生態系は、豊かな生物多様性と大きな基礎生産を特徴とする生態系であり、沿岸生態系の中の重要な役割を担っている。また、サンゴ礁は、外洋からの波から国土を守るなど、国土の保全という観点からも重要な役割を担うなど、多面的な機能（価値）を有している。

本分科会では、このサンゴ礁の有する機能（価値）を、できうる限り客観的な評価手法を用いて評価することで、サンゴ礁保全行動計画で必要とされる行動の、必要性の基礎的な考え方を提供するとともに、今後、サンゴ礁の価値の国民的理解の増進を図るための啓発・普及活動を展開することを目的とする。

2. サンゴ礁の価値評価の基本的考え方について

- ① サンゴ群集、サンゴ礁が存在することで発揮される機能（価値）及びサンゴ群集・サンゴ礁に依存して営まれる産業等が評価の対象。
- ② サンゴ礁域、非サンゴ礁域に分けて評価を実施。
- ③ 「海洋」自体が持っている機能（価値）は評価の対象外。
- ④ 代替法等により貨幣換算できる価値については、できうる限り貨幣換算する。但し、その手法の限界には留意する。一方、貨幣換算できない価値についても、できるかぎりその価値の記載に努める。
- ⑤ 評価の基準（サンゴ群集の状態）によって、発揮される機能（価値）が異なる場合は、その機能（価値）が最大限発揮できる状態を仮想して評価する。
【例】現在、サンゴ群集がほぼ消失しているサンゴ礁域にあって、「最初に安定的なサンゴ群集があった」とし、その状態のサンゴ礁を評価の対象とするべきか、あるいはサンゴ群集が消失した状態でサンゴ礁の価値を評価するべきか？
水産業、観光業など
- ⑥ 非サンゴ礁域の水産関連の評価を行う場合は、サンゴ群集に依存的に生息する魚種等を評価対象とするべきか？

評価する機能(素案)

サンゴ礁域

エコシステムサービス	機能 (大分類)	小分類	貨幣換算
調整 (REGULATING)	海岸浸食防止の価値	海岸線の保護	○
供給 (PROVISIONING)	漁業の価値	沿岸漁業漁獲金額	○
		養殖漁業漁獲金額	○
文化 (CULTURAL)	観光・教育的な価値	ダイビング、エコツアー等	○
		観光客の入り込み(宿泊、食事等)	○
		学習・体験活動(自然観察)	○
	研究	×	
	伝統的な文化の価値	—	×
補助 (SUPPORTING)	生態的な価値	幼魚等の生息域	×
		濾過食性動物による水質浄化	○
		干潟による水質浄化	○
		藻場による水質浄化	○

非サンゴ礁域

エコシステムサービス	機能 (大分類)	小分類	定量的評価
供給 (PROVISIONING)	漁業の価値	沿岸漁業漁獲金額	○
文化 (CULTURAL)	観光・教育的な価値	ダイビング、エコツアー等	○
		観光客の入り込み(宿泊、食事等)	○
		学習・体験活動(自然観察)	○
	研究	×	
	伝統的な文化の価値	—	×
補助 (SUPPORTING)	生態的な価値	幼魚等の生息域	×
		濾過食性動物による水質浄化	○

